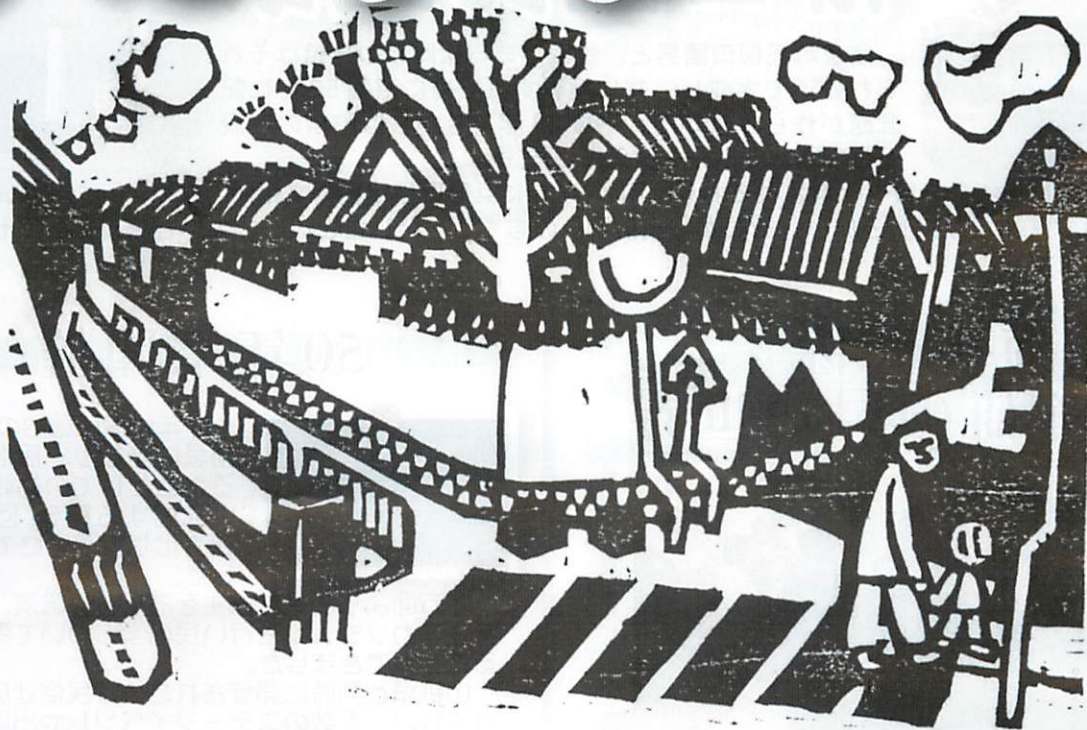


# うぶすな

～ふるさとを見る・知る・探す！～



版画：岩田健三郎氏（辻川「鈴の露酒店」西の交差点）

## ふるさと再発見を

福崎町教育長 高寄 十郎

「ふるさとの山に向ひて  
言うことなし」

ふるさとの山はありがたきかな  
（石川啄木）

人には「古い」「新しい」はあっても、誰にもふるさとと呼ばれるものがあります。現在、福崎町で生活されている方はここ「福崎」がふるさとになるのです。「福崎」について私たちは知っていないようで、知らないこともたくさんあります。毎日目にしている山や川・建物・人々の暮らし等についても、歴史や変化・変遷があります。それらを一つ一つひも解いていきますと、私たちが知っていることもあれば知らないこともたくさんわかってきます。

歴史を学ぶ意義は、過去を通して私たちの現在を知り、よりよい未来づくりに繋げていくためにあります。

福崎町には歴史的遺産や有形・無形の文化財もたくさんあります。今一度、自分の目で、耳で、足でこれらの学習をしていたければ、福崎町よさ・自慢の再発見ができ、住みやすいまちづくりに貢献できるのではないのでしょうか。その一隅として「うぶすな」がお役に立てれば嬉しく思います。

## 連携事業三年目にあたって

神戸大学大学院人文科学研究科  
地域連携センター学術推進員

河野 未央

福崎町と神戸大学大学院人文科学研究科地域連携センターとの連携事業も三年目を終えようとしています。歴史文化豊かな福崎の地で、その文化を活かしたまちづくりを行う素材提供ができれば…との思いを抱きながら、大庄屋三木家の文書調査を軸に事業を進めてきました。

現在、事業は少しずつ広がりをみせています。昨夏は、柳田國男五〇年祭にあわせて柳田の書簡調査を行い、成果を歴史民俗資料館特別展示「民俗学のふるさと福崎」幼き國男に刻まれた福崎文化」に還元することができました。

今後はより町民の方々が親しみやすい、福崎の地名研究実施を計画しています。やや壮大ですが、『播磨国風土記』にはじまり、古代から近代まで福崎の土地に刻まれてきた歴史をたどり、これまでの成果を集積することができればと思います。

地名研究は、実際にその地で暮らしている方々の感覚、情報が欠かせません。聞き調査の実施なども含め、町民の方々とともに作り上げることができればと思います。

# 柳田國男・松岡家記念館 / 柳田國男生家



名誉町民柳田國男と、生家である松岡家の兄弟はそれぞれの道で大成し、共に顕彰するために昭和50年に記念館が作られました。平成23年4月からは町営の施設として新たな出発を迎えました。



生家は記念館の西隣に移設・保存されており、昭和47年に兵庫県指定民俗文化財となりました。柳田國男はこの生家を「日本一小さな家」といい、そこから民俗学への志も源を發したとあってよいと著書『故郷七十年』の中に記しています。

## 特別展 海軍大佐 松岡静雄の見た世界



展示室のようす

平成23年度特別展では昨年5月に新たに松岡静雄に関する資料の寄贈を受け、それら新収蔵資料を中心に特別展を行いました。

静雄自身の行動記録である「奉職履歴」や書簡、著書を展示し、その功績や兄・國男との関係を紹介しました。

静雄が活躍した日露戦争当時への関心の高さもあり、多数のご来館をいただきました。

奉職履歴

## 講演会



11月13日には岩井忠彦先生に記念講演を行っていただきました。日露戦争の背景や静雄が兄・國男に宛てた書簡の内容など時代・テーマ共に難しいものではありましたが、時には笑いもある非常に楽しい講演となりました。

## 夕ヨウ星人に学ぶ生き物のふしぎ 企画展 ~國男も見た夕ヨウ星人~

3月3日より生物の多様性を紹介する企画展を人と自然の博物館との共催で開催しました。河南堂珍元齋さんによる「夕ヨウ星人」や柳田國男の『野草雑記』『野鳥雑記』を紹介しました。また、珍元齋さんの巨大絵巻や鈴木武さんによる講演会も実施し、大人も子どもも楽しめる展示になりました。



## 50年祭開催



昨年は柳田國男の没後50周年に当たり、民俗学のふるさととしての福崎を全国に発信する第32回山桃忌を文化センターにて行いました。

各方面より著名な先生をお招きし講演、パネルディスカッションを行い民俗学について深く考えることができました。

山桃忌と同時に開催されたのが民俗辻広場まつりでした。多数のステージイベントや出店などで賑わいました。

また記念館でも語り部や百人一首大会のほか妖怪の展示も行い、楽しい夏のひと時を過ごしました。



## 伊勢大神楽

毎年、回禮していただいている伊勢大神楽が今年も記念館にやってきました。

伝統的な獅子舞のほか血回しなどの曲芸も披露し観覧された方を魅了しました。

最後には獅子に頭を噛んでもらいましたが中には泣き出す子も・・・



## 版画教室



版画教室では姫路市にある「水上村 川のほとり美術館」の岩田健三郎先生から上手な版画の彫り方やコツなどを教えていただきました。

今回は干支の辰を彫り、年賀状のデザインが完成しました。

ちなみに本紙の表紙画は岩田先生の作で、鈴の露酒店前の旧生野街道が交差する辻です。

## スタッフのひとこと

町営化となってからほぼ1年が過ぎました。運営は大きく変わりましたが、目標は変わらず親しみやすい記念館作りを目指していきます。

まずはたくさんの方に足を運んでいただくようがんばります。

# 神崎郡歴史民俗資料館



## 旧神崎郡役所／兵庫県指定文化財

建物は、明治19年(1886)、神東・神西郡役所として、神東郡田原村(現福崎町西田原辻川)に建てられたものです。明治29年(1896)には神崎郡役所と改称され、大正15年(1926)に郡制が廃止されるまで郡役所として使用していました。

昭和57年(1982)3月、現在地に移築・復元し、10月には福崎町立神崎郡歴史民俗資料館として開館しました。

現在は、地域の歴史・文化遺産を再発見する場所として、資料整理や展示活動、歴史講座や体験活動等を行っています。

## 辻広場まつり ライトアップ & れきみんカフェ (平成23年8月6日・7日)



初の試みとして、2階をカフェとして開放しました。オカリナの生演奏や幻想的なライトアップも加わり、いつもと違う雰囲気味わっていただきました。

## 辻川山演奏会 ウクレレ演奏会 (平成23年7月19日)



今年はハワイアンムードあふれるウクレレの演奏会を開きました。魅力的なフラダンスや、オカリナとのコラボもあり、子どもから大人まで楽しみました。

## 各種講座 連続講座

毎年異なるテーマを設け、年間5回の講座を行います。

今年度は「地域の歴史文化遺産は郷土のたから」をテーマとし、毎回約40名の方々にご参加いただいています。



## 古文書講座

平成23年度から新たに開講した講座です。郷土の史料を題材に、講師の先生が一文字一文字丁寧に解説していただきます。

## 神戸大学



福崎町では、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターとの共同研究を進めています。

## 展示活動

### 巡回展 (平成23年6月～24年2月)



西中学校にて

年間を通じ、町内各施設にミニコーナーを設置して巡回しています。

今年のテーマは「柳田國男とふるさと福崎」です。

### 特別展 (平成23年10月22日～11月23日)



図録



展示室のようす

今年は50年祭にあわせて「民俗学のふるさと福崎」をテーマに開催し、会期中に千人を超える方々にご来場いただきました。

## ふくさき歴史体験隊

町内小学校の5・6年生を対象に活動している体験隊は、18年目を迎えた今年、49人の隊員を迎えました。

全8回の活動を通じて、地域の歴史文化を学び、地域の人とのふれあいを体験します。



## スタッフのひとこと

記念館が町営化し、資料館と一体化した運営が可能となりました。来館者をもう一方の館へご案内しやすいようにと導入した「入館パス」もその一つです。今後はスタッフの連携もさらに緊密化し、資料館の各種事業を多くの方に楽しんでいただけるよう、努力してまいります。

# 三木家だより

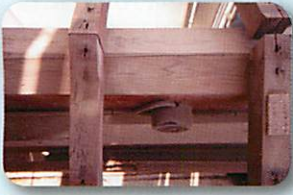


平成二二年度から保存修理工事を開始し、表門と厩・土塀の一部を解体しました。平成二三年度から主屋の修理工事に着手し、五年後の平成二七年度に完成する予定です。現在は解体工事を進めており、瓦降しを完了、土壁や木部の解体を行なっています。

主屋は事前調査で軸部（柱や梁の構造部分）の破損は限定的であったため、軸部を残しながら修理を行います（半解体工事）。

また工事に並行して建築年代や修理の変遷、技法について文化財調査を実施しています。表門は墨書から銀の馬車道の拡張に伴い明治七年に改築されたことがわかりました。また主屋では使用されている部材から天明二年や享和元年、明治四年、大

正六年など修理のさまざまな年号の墨書等が発見されています。主屋の建築年代は不明なため、今後調査を進めます。



# 埋蔵文化財だより

亀甲繫単鳳文銀象嵌円頭大刀柄頭



福崎町西田原にある東広畑古墳から装飾付大刀の亀甲繫単鳳文銀象嵌円頭形大刀柄頭（縦八cm×横四cm・時期は六世紀後半）が出土しました。

これは、大陸由来の高度な技術で作られ、被葬者の生前の権威の象徴として重要な役割があり、ヤマト政権から軍事的関係を持つ地域の有力者に賜ったものという説が有力です。

■福崎は、古墳時代、古代ともに西日本の東西南北を繋ぐ要衝である。そこに銀象嵌大刀を持つ豪族が存在し、播磨と但馬と摂津と吉備など各地の豪族との連係をはかった。六角形区画の中に曲線文様のある同一文様の柄頭を持つ大刀は、福岡県塚花塚古墳、群馬県本郷古墳、埼玉県秋山古墳などにあるが、特に塚花塚古墳大刀とは同一工房作かと思えるほどよく類似している。北部九州を介しての半島との関係が考えられ重要である。

（兵庫県立考古博物館館長 石野 博信）

西治下代ノ下モ遺跡

西治地区のほ場整備事業に伴い集落跡を発見しました。今までの地区では、主に古墳しか知られておらず、古墳時代のふつうの人々の暮らしが明らかになってきました。今から約一五〇〇年前の古墳時代の人々が住んでいた住居跡や使用していた甕や壺、甑といった蒸し器や魚網の土製の錘や塩の持ち運びに使われた製塩土器が見つかりました。

また特殊なものとして、古墳時代中期後半の祭祀跡が見つかりました。これは住居跡に穴を掘って土器を据え、それを破砕し、その後焼土で穴を埋め戻したものでした。引越に際し、住んでいた土地を鎮める祀りと考えられます。



西治下代ノ下モ遺跡から見つかった土器

# 編集後記

このたび、両館の一年間の事業や活動について報告する『うぶすな』を発行する運びとなりました。『うぶすな』は「生まれた土地（故郷）」を示す言葉で、柳田國男と（兄）井上通泰が幼い頃過した場所を思い、詠んだ句もこの一節から始まります。

館報では事業・活動をはじめ、地域で大切に守り伝えられてきた歴史や文化遺産、私たちの『うぶすな』に刻まれ、長い時を経て明らかになった歴史などを発信していきたいと思えます。

これからも、郷土の歴史・文化、そして人々とのつながりを大切に、この館を訪れた皆さんがそれぞれ『うぶすな』に想いを馳せるひとときとなることを願っています。



# 発行

福崎町立

柳田國男・松岡家記念館

〒六七九・二二〇〇四

兵庫県神崎郡福崎町西田原

TEL 〇七九〇・二二一・一〇〇〇

◆入館料

無料

◆休館日

月曜日（祝日は開館）、

祝日の翌日（土・日は開館）

◆開館

午前九時〇〇分～

午後四時三〇分

（入館は午後四時まで）